

令和4年産水稻の作況調査結果と当面の技術対策

技術支援課
(普及指導室)

生育ステージ	早期：乳熟期～黄熟期 早植：出穂期～乳熟期 普通期：幼穂形成期～減数分裂期
生育概況	早期：「コシヒカリ」の出穂期は平年より2日程度早まった。出穂後の高温の影響による白未熟粒等の発生が懸念される。 早植：「コシヒカリ」「ひとめぼれ」の出穂期は平年並～2日早まった。 普通期：「あさひの夢」の出穂期は平年並の見込み。赤枯症の発生が多い。

1 気象経過 (前橋地方気象台の気象データ、8月は第3半旬までのデータ、参考資料参照)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
気温(平年差)	+1.6℃	-0.1℃	+1.1℃	+1.7℃	+1.2℃	—	—
降水量(平年比)	152%	169%	83%	123%	41%	—	—
日照時間(平年比)	88%	112%	118%	108%	93%		

2 生育概況

(1) 概要

ア 早期・早植栽培 (6月15日以前の田植)

早期栽培「コシヒカリ」の生育ステージは、乳熟期～黄熟期となっている。6月上旬の低温の影響で生育が一時停滞したが、その後の高温のため遅れは解消し、出穂期は平年より2日程度早まった。生育は順調で、茎数は平年並に確保されているが、出穂後の高温による白未熟粒等の発生が懸念される。

早植栽培「コシヒカリ」「ひとめぼれ」の生育ステージは、出穂期～乳熟期となっている。6月の低温のため生育が遅れたが、その後の高温により概ね回復し、出穂期は平年並～2日程度早まった地域が多い。生育は順調で茎数は概ね平年並を確保している。病虫害は、中山間地域や東毛の一部で斑点米カメムシ類、イナゴ類がやや多い。

イ 普通期栽培 (6月16日以降の田植)

普通期栽培「あさひの夢」の生育ステージは幼穂形成期～減数分裂期となっている。移植直後の高温の影響により発生した除草剤の薬害やガス害による初期の生育不良は、概ね回復したものの、一部で影響が残り茎数が少ない。出穂期は概ね平年並が見込まれる。病虫害は、赤枯症、紋枯病の発生が見られる。

(2) 病虫害・障害等の発生状況

ア 早期・早植栽培

斑点米カメムシ類、ササキリ類やイナゴ類が北毛や東毛の一部で多い。

イ 普通期栽培

紋枯病、赤枯症、藻類の発生が平坦部でやや多い。

(3) 作況ほ等の調査結果

ア 作況ほの調査結果（表1参照）

県平均の移植後40日の草丈は56cm（過去平均比102%）、茎数は493本/m²（同103%）であった。出穂期は8月6日（同-2日）であった。

イ 農業技術センターの生育基本調査結果

(7) 稲麦研究センター（6月24日移植）

「ゆめまつり」の移植後40日の草丈は75cm（過去9か年平均比106%）、茎数は482本/m²（同89%）であった。幼穂形成始期は8月7日（+1日遅）であった。

(4) 東部地域研究センター（6月1日移植）

「ゆめまつり」の移植後40日の草丈は52cm（過去10か年平均比82%）、茎数は739本/m²（同104%）であった。

表1 水稻作況ほ調査結果（地域別・作期別）（）内は平年比

調査項目 地区	移植期 月/日	移植後20日調査		移植後40日調査		出穂期	
		草丈 cm	茎数 本/m ²	草丈 cm	茎数 本/m ²	カ所数	月日
県	6/5(+1)	29(95)	170(94)	56(102)	493(103)	7/13	8/7(-1)
中部	6/15(0)	31(93)	178(86)	62(100)	416(98)	2/4	8/11(-2)
西部	6/5(-1)	29(94)	118(73)	64(100)	422(96)	2/3	8/5(0)
北部	5/22(0)	29(99)	168(98)	55(113)	490(93)	3/3	8/4(-3)
東部	6/6(+5)	31(100)	219(116)	66(108)	517(108)	2/3	8/11(+3)
早期・早植	5/28(0)	28(94)	190(95)	56(102)	493(103)	8/8	8/7(-1)
普通期	6/24(+1)	35(101)	130(77)	69(101)	391(94)	0/4	-

注1) 県、地区、作期別の平均値はいずれも算術平均とした。

2) 移植期欄の（）内の「-」は早い、「+」は遅いを示す。

3) 7月15日現在で調査時期となったほ場のみの値で、カ所数欄は〔調査カ所/設置カ所数〕を示す。

4) 早期・早植：6月15日以前の田植。普通期：6月16日以降の田植。

5) 高崎市、片品村は品種が変更となったため、西部平均・北部平均・県平均から除外した。

(4) 作柄のまとめ（表2）

各地域の作柄は、すべて「並」であり、県全体では「並」が見込まれる。

表2 地帯別作柄概況（）内は普及指導課・地区農業指導センター

地域別	作柄	作柄概況
中部 (中部) (渋川) (伊勢崎)	並	・早植栽培：出穂期～乳熟期。高温の影響により下葉の黄化が見られる。出穂期は平年並～やや早まった。赤枯症の発生が多い。 ・普通期栽培：幼穂形成期～減数分裂期。移植直後の高温のため除草剤の薬害、ガス害による生育不良が発生した。概ね回復したものの、薬害が著しいほ場では生育差が大きい。赤枯症、藻類が多い（中部）。
西部 (西部) (藤岡)	並	・早植栽培：出穂期～乳熟期。穂数は平年並に確保されている。出穂期は平年並～2日早まり、穂揃いは良好であった。病虫害等は、カメムシ類（西部）、赤枯症、紋枯病が見られる。

(富岡)		<ul style="list-style-type: none"> 普通期栽培：幼穂形成期～減数分裂期。ガス害等により活着や初期生育が遅れたため中干しを遅らせるほ場が見られたが、生育遅れは概ね回復し、茎数も平年並を確保した。出穂期は平年並を見込む。病害虫は、イネツトムシ（西部）、藻類、紋枯病、赤枯症がやや多い。
北 部 (吾妻) (利根 沼田)	並	<ul style="list-style-type: none"> 早植栽培：出穂期～乳熟期。一部で降雨のため中干し不十分なほ場が散見された。6月の低温・寡照のため生育の遅れや生育量が少なかったが概ね回復し、出穂期は平年並～3日早まった。病害虫は、カメムシ類（吾妻）、イナゴ類（利根）の発生がやや多い。
東 部 (東部) (桐生) (館林)	並	<ul style="list-style-type: none"> 早期栽培：乳熟期～黄熟期。穂数は平年並に確保され、出穂期は平年より2日程度早まった。出穂後の高温による白未熟粒等の発生が懸念される。 早植栽培：減数分裂期～乳熟期。やや軟弱に生育したものの、茎数は平年並に確保されている。出穂期は移植直後の低温が影響して一部で遅れたが、平年並～やや早まった。 普通期栽培：幼穂形成期～減数分裂期。茎数は平年並だが、一部でガス害の影響が残った。病害虫は、紋枯病（東部、館林）、内穎褐変病、カメムシ類、ササキリ類（桐生）、イナゴ類（館林）の発生がやや多い。

3 技術対策

(1) 共通

ア 気象庁発表による長期予報では、向こう1か月の気温が高温となる確率は60%と予想されている。そのため、高温による品質への影響が懸念されることから、以下のとおり適正な水管理や適期収穫等の基本技術を徹底し、被害の軽減を図る。

イ 生育の前進を見据え、計画的な作業とその準備に努め、荷受け施設においては水稻の生育に応じた稼働計画を設定する。

ウ 農薬散布については適正使用を心がけ、使用履歴の記帳を徹底する。

エ 葉いもちの病斑が上位葉に多い場合や、長期の低温と長雨が予想される場合は、穂いもちの発生が懸念されるため、穂ばらみ期および穂揃い期に防除を行う。

オ 斑点米カメムシ類は、出穂期の2～3週間前と出穂期頃（イネ科雑草発生前）に除草を行う。ただし、頻繁に除草が行えない場合は出穂2週間前に除草作業を行い、以降は作業を控える。薬剤による防除を行う場合は出穂期～乳熟期に行う。

(2) 早期・早植栽培

ア 乳熟期以降は間断かん水を基本とするが、高温が予想される場合は飽水管理や夜間かん水などにより、根の活力維持と稲体付近の温度低下を図る。

イ 台風襲来時やフェーン現象などの高温・乾燥の強風時は、風が止むまで深水管理とする。

ウ 出穂後30日以降を目安に落水し、その後は必要に応じて走水を与える。

エ 高温日が連続すると登熟期間が短縮しやすいことに留意する。また、白未熟粒や胴割粒の発生が懸念されることから、成熟状況を確認して適期収穫を徹底する。

オ 急速乾燥や過乾燥は胴割粒の発生を助長するため、乾燥作業には十分留意し、毎時乾減率は0.8%以下で乾燥を行う。

(3) 普通期栽培

ア 穂ばらみ期～出穂開花期は湛水、乳熟期以降は間断かん水を基本とするが、出穂後に高温となる場合は、飽水管理や夜間かん水などにより、根の活力維持と稲体付近の温度低下を図る。

イ 葉色が低下しているほ場では、穂肥により高温障害（白未熟粒・胴割米）の軽減を

- 図る
- ウ 台風襲来時やフェーン現象などの高温・乾燥の強風時は、風が止むまで深水管理とする。
 - エ 病害虫の発生状況、発生予察情報を踏まえ、効果的防除を心がける。稲こうじ病が発生した履歴のあるほ場では出穂前の適期に防除を行う。

《参考資料》

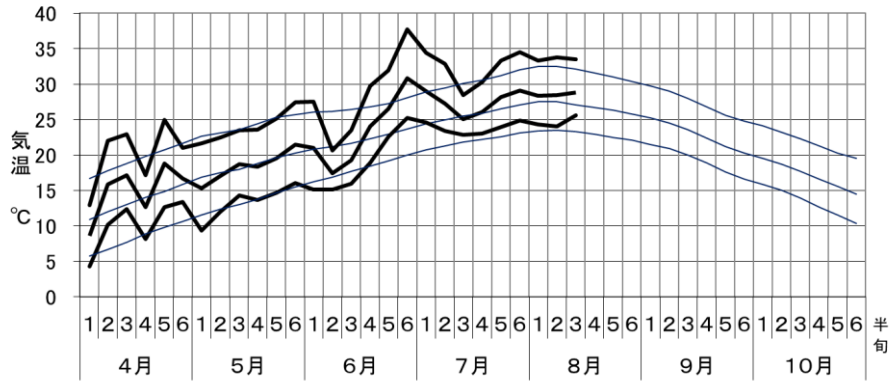


図1 気温

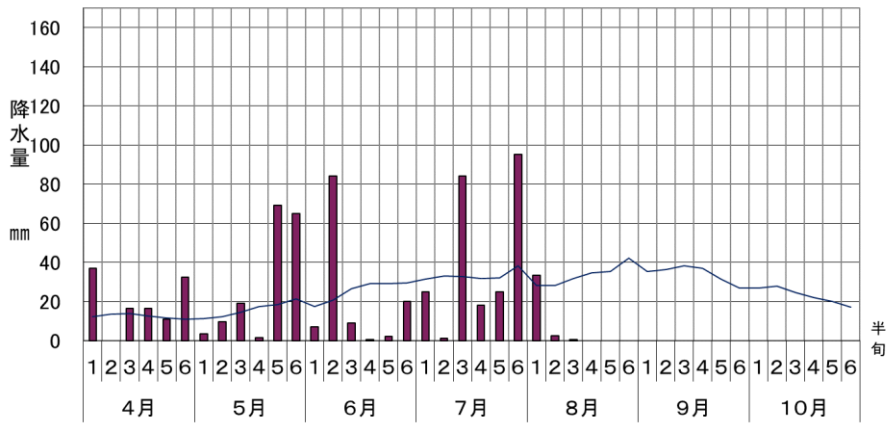


図2 降水量

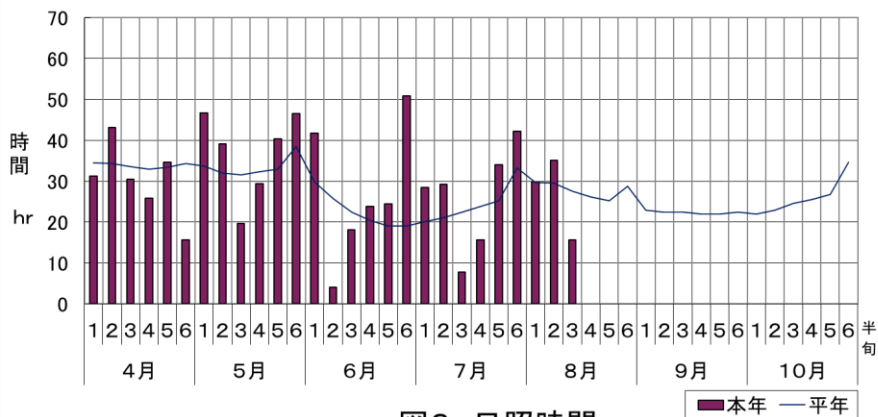


図3 日照時間